

# 千刈狸の呟き

## ～ 蒼狸の暇つぶし ～

勤務医が職場を去る理由は何か。その理由の一つと考えられる「病院における制服組と背広組」について考えてみた。

制服組＝勤務医	背 広 組
白 衣	背広、ネクタイ、 携帯ストラップ
ズック	革靴またはサンダル
勤労者の香り	オーデオロン
時間に追われた表情	余裕の表情または無表情
終わりのなき義務	定刻の退社

制服組の現場には常に緊張感が張りつめている。患者さんの生命や健康を預かる責任、患者さんの家族や職場の要望に答える作業が続く。背広組は朝からコーヒーを飲みじっくり思案する。はんこや書類提出を武器に制服組をいかに管理するか。また背広組はコンプライアンスを言う、それがあたかも正統であるがごとく。それが彼らの影響力拡大のために作用していることや、彼らが言う通達が実態に合っていないこと等は考慮しない。やがて制服組ははんこや書類に振り回される自分に気付く。患者さんのためではなく背広組が計画する組織運営のために働く自分に。このように背広組が制服組を支配してしまう。背広組は提案に専念し、制服組（現場）がそれを採択する制度はできないものか。そうでないと、今度生まれる時は背広組がいいと思ってしまう。それでもやはり自分は制服組で命を燃やそう、現場で患者さんに元気をあげたいからと考える。

### ～ 医師の手 ～

薬剤師や医師の手は箸や鉛筆のみしか持たない細い繊細な手が多い。農家の方々の皮膚が厚く筋肉と骨が発達したたくましい手とは対照的である。自分はずっと医師の手で暮らしてきた。他人と握手する場合も、相手の手の力を感じながらも、自身は力を入れずに形式的に行ってきた感じがする。

そういえば、先輩の仙台にいる泌尿器科の先生はいつも握手してくれる。西目に住む高校の先輩もそうだ。いつも力強く手が痛くなるほど握手してくれる。「いたー」と言い、つい笑ってしまう。いつもこの二人からは自分は励まされていたのかもしれない。

最近の2年間は中国の鉄球回しを週3回行っている。もしかして手を動かすことで頭の回転にいい影響があるかもしれないと思い始めたのだ。左右の手に2個ずつ鉄球を持ち、時計方向、半時計方向、左右同方向、左右反対方向へと回転させる。回転中に筋肉が痛くなる程度で終了。その結果、手形をとっておけばよかったと思うほど自分の手がかわった。大仏さんの手のように、球部が発達しふくよかに変身したのである。指の筋肉が太くなり、手全体が一回り大きくなり、左右の握力差はなくなった。左手が利き手の右手と同様に快調に動く。内視鏡検査の時左手の動きが気持ちいい。先日病棟で点滴スタンドが倒れてきたが知らないうちに左手がそれを抑えていて驚いた。そしてこの頃は握手の時に密かに手で握り返しをして相手に自分の握力を伝えている。相手は認知していないと思うが、自分はその時に「一緒に元気にやろう」と念じ、健康パワーを贈っているつもりでいる。

高名な琴の先生の脳MRI画像で、高齢なのに運動野が著明に発達していたのを本で見たことがある。またナンプレをやってお互いの頭の回転の速さを誉めあっている友人もいる。何か脳のためのトレーニング（脳トレ）をした方がいいかも。この2年間特に頭の回転には変化は無いが、自分は鉄球回しで脳トレを続けようと思う。自分はかなり暇人かもしれない。

(蒼 狸)